

商工会議所L O B O（早期景気観測）

—平成12年8月調査結果—

（平成12年9月1日）

○調査期間：平成12年8月21日～25日

○調査対象：全国の395商工会議所が2666業種組合等にヒアリング
（内訳）建設業 393 製造業 648 卸売業 246
小売業 765 サービス業 614

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）
及び、業界として当面する問題等

※ DI値について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成12年8月調査結果のポイント】

業況D1の横ばい傾向変わらず。なお不安定な景況感

- 8月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業、小売業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲37.9）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小して▲37.2となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から113ヵ月、また平成3年9月から108ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られたが、その後は概ね横ばい傾向で推移している。電気機械関連の製造業を中心に、業況の好転や先行き期待感の指摘も一部見られるが、足元の景況感は、なお不安定な状況が続いている。

建設業では、「民間設備投資が活発化」（一般工事）との声の一部で寄せられる一方、「業況は益々悪化してきている。公共工事も例年に比べ発注率が低下し、民間工事でも低価格競争が激しく、採算度外視の様相を見せている状態」（土木工事）、「工事の件数が減少。経費の増加、金利負担で資金繰りが厳しい」（一般工事）といった厳しい状況も多く指摘されている。製造業では、「受注良好、年内は堅調に推移する」（電子部品）、「半導体製造関連は売上・採算ともに増加傾向にある。関連の裾野分野も徐々に良くなって来ている」（金属加工機械）などの声が寄せられる一方、「猛暑の影響で、売上げは減少」（パン・菓子）、「受注単価は一向に上昇せず、むしろ切り下げ圧力が強く、売上減、採算悪化にならざるを得ない。設備投資の動きはまだ見られない」（金属加工機械）、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（金物類）といった厳しい声も指摘されている。卸売業では、「雪印乳業の問題や、この夏暑い日が続いて食中毒警報が出たりと、食品へのイメージダウンも影響して売上げは前年比ダウン」（農畜産水産物）、「大幅な漁獲減少で、大変厳しい状況」（同）、「陶磁器市場が縮小方向にあり、加えて安価な輸入商品の増加が、価格に影響を及ぼしており打開策に苦慮されている状況下」（家具・建具・什器等）、など厳しい業況を訴える声が多いものの、「夏の暑さのおかげで、ビールの消費が若干よかった」（食料・飲料）、「7月・8月と暑い夏が続き、季節商品を扱う問屋にとっては良い夏であった」（総合卸）との声も寄せられている。小売業では、依然として客数の減少・客単価の下落といった消費低迷が指摘されているほか、「猛暑の影響で、商店街を歩く人が少なく、売上減となった店が多い」（商店街）、「食料関連品（乳製品等）の販売不振」（百貨店）などの指摘が寄せられている。その一方で、「高気温の影響で、食品（ジュース、アイスクリーム、ビール）、家電（エアコン等）が売れている」（百貨店）、「若者を中心に乗用車2000cc未満の売上好調」（自動車）といった声も寄せられている。サービス業では、「地震報道による風評影響が大きく、観光客減。さらに秋の予約不振」（旅館）、「企業等の団体客減少。客単価が低い」（食堂・レストラン）といった指摘がある一方、「異常高温の毎日で、客数の増加が見られる。9月以降に注目したい」（そば・うどん店）、「同窓会等、団体の客数が多かった」（旅館）、「業界としては少し良いムード、夏のレジャー等による活気で車の活動が非常に活発になり、持続できるか今後期待している」（自動車整備）などの声も寄せられている。

売上面では、製造業・卸売業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことにより、全業種合計の売上D1はマイナス幅が1.2ポイント縮小して▲35.1となった。採算面では、建設業・製造業・小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算D1はマイナス幅が1.4ポイント拡大して▲40.0となった。

- 向こう3ヵ月（9月～11月）の先行き見通しは、全産業合計の業況D1（今月比

ベース)が▲28.3となっている。

- 景気に関する声、当面する問題としては、年度下半期の公共工事発注、個人消費、ゼロ金利解除の影響についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業、小売業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲37.9）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小して▲37.2となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から113ヵ月、また平成3年9月から108ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られたが、その後は概ね横ばい傾向で推移している。

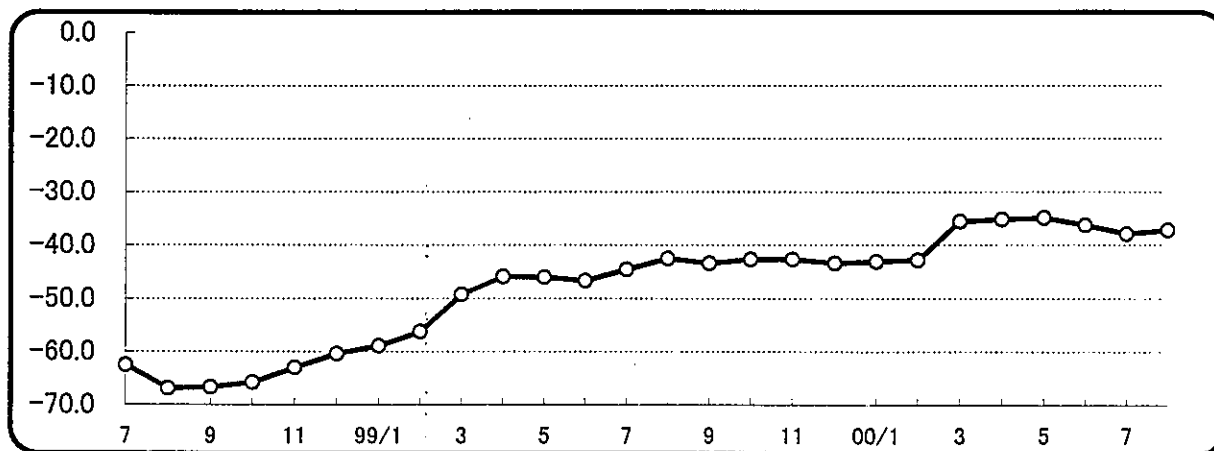
○ 向こう3ヵ月（9月～11月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲28.3となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	12年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲35.6	▲35.2	▲34.9	▲36.3	▲37.9	▲37.2	▲28.3 (▲29.4)
建設	▲38.7	▲45.7	▲44.5	▲45.1	▲46.7	▲47.6	▲37.7 (▲33.7)
製造	▲26.6	▲24.2	▲26.2	▲26.2	▲23.3	▲24.9	▲18.2 (▲19.8)
卸売	▲40.0	▲36.7	▲40.4	▲37.6	▲46.7	▲43.8	▲27.7 (▲24.9)
小売	▲41.4	▲45.5	▲39.3	▲41.1	▲45.8	▲44.2	▲34.9 (▲36.5)
サービス	▲34.4	▲27.0	▲29.8	▲35.1	▲34.2	▲31.8	▲24.9 (▲30.4)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年8月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



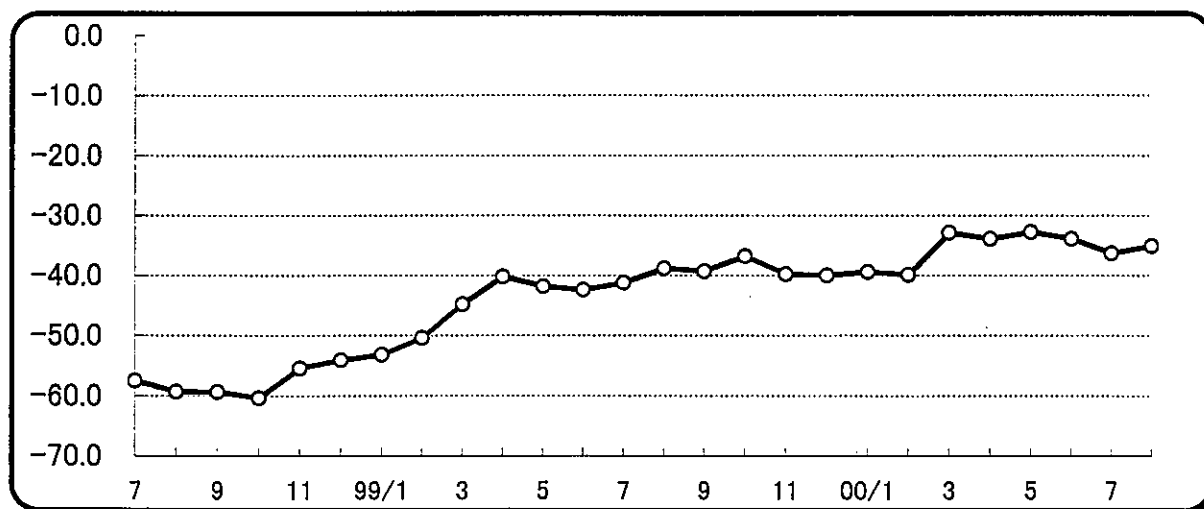
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、製造業・卸売業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が1.2ポイント縮小して▲35.1となった。
- 向こう3ヵ月（9月～11月）の先行き見通しは、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲22.7となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲ 32.9	▲ 33.9	▲ 32.8	▲ 33.9	▲ 36.3	▲ 35.1	▲ 22.7 (▲ 25.7)
建設	▲ 30.5	▲ 38.4	▲ 38.2	▲ 38.9	▲ 39.6	▲ 42.1	▲ 29.0 (▲ 29.9)
製造	▲ 24.4	▲ 20.5	▲ 18.4	▲ 18.5	▲ 19.3	▲ 18.9	▲ 10.6 (▲ 17.4)
卸売	▲ 36.5	▲ 41.0	▲ 40.4	▲ 32.9	▲ 48.5	▲ 41.0	▲ 21.5 (▲ 12.1)
小売	▲ 41.7	▲ 47.5	▲ 44.1	▲ 45.1	▲ 45.9	▲ 48.2	▲ 33.8 (▲ 34.3)
サービス	▲ 31.4	▲ 25.7	▲ 27.7	▲ 33.8	▲ 35.7	▲ 29.3	▲ 18.0 (▲ 27.0)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



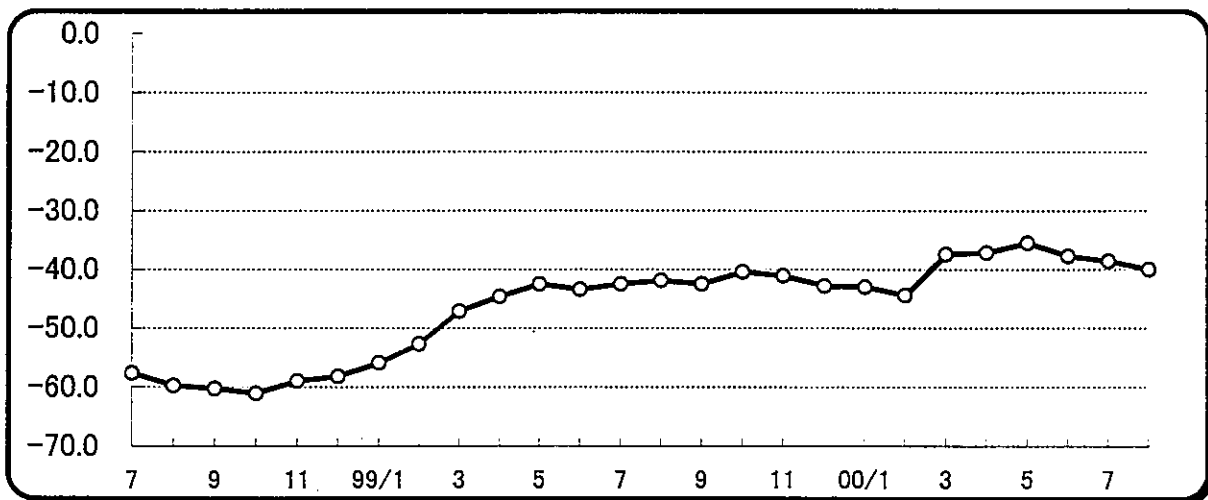
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設業・製造業・小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が1.4ポイント拡大して▲40.0となった。
- 向こう3ヵ月(9月～11月)の先行き見通しは、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲28.0となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	12年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲ 37.4	▲ 37.1	▲ 35.5	▲ 37.7	▲ 38.6	▲ 40.0	▲ 28.0 (▲ 30.0)
建設	▲ 43.9	▲ 46.6	▲ 48.2	▲ 50.5	▲ 46.5	▲ 52.1	▲ 39.0 (▲ 39.9)
製造	▲ 32.6	▲ 28.6	▲ 28.5	▲ 31.4	▲ 28.8	▲ 30.4	▲ 18.3 (▲ 23.1)
卸売	▲ 41.4	▲ 41.7	▲ 39.0	▲ 34.1	▲ 43.0	▲ 42.7	▲ 31.3 (▲ 22.4)
小売	▲ 38.9	▲ 42.6	▲ 36.9	▲ 39.1	▲ 42.6	▲ 45.2	▲ 33.5 (▲ 34.7)
サービス	▲ 34.7	▲ 31.5	▲ 31.3	▲ 35.5	▲ 37.0	▲ 34.5	▲ 22.9 (▲ 28.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	-	-	-	-	▲ 23.6	▲ 23.4	▲ 19.9
建設	-	-	-	-	▲ 30.8	▲ 32.4	▲ 27.1
製造	-	-	-	-	▲ 20.3	▲ 20.3	▲ 15.9
卸売	-	-	-	-	▲ 22.2	▲ 20.8	▲ 19.4
小売	-	-	-	-	▲ 21.6	▲ 22.0	▲ 18.9
サービス	-	-	-	-	▲ 25.2	▲ 23.2	▲ 20.6

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】建設業、小売業で悪化超感強まる。

【先行き見通しDI】全業種で悪化超感弱まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	12年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 0.8	▲ 0.2	1.3	0.3	▲ 1.9 (▲ 4.4)
建設	▲ 2.5	1.7	1.3	1.7	0.4	0.3	▲ 2.1 (▲ 5.2)
製造	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 7.4	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 6.1 (▲ 7.4)
卸売	12.4	7.9	9.6	11.0	7.3	7.3	5.1 (▲ 1.7)
小売	2.0	4.0	3.9	4.0	9.2	7.1	2.7 (▲ 0.4)
サービス	▲ 5.8	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 5.2	▲ 6.2 (▲ 6.7)

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】卸売業以外の全業種で上昇超感強まる。

【先行き見通しDI】全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲ 13.2	▲ 14.8	▲ 13.4	▲ 11.9	▲ 12.0	▲ 10.1	▲ 10.3 (▲ 12.1)
建設	▲ 20.9	▲ 27.2	▲ 25.3	▲ 24.9	▲ 24.2	▲ 24.1	▲ 20.7 (▲ 17.2)
製造	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 13.0	▲ 12.7	▲ 9.8	▲ 7.6	▲ 13.8 (▲ 14.8)
卸売	▲ 17.6	▲ 20.9	▲ 16.3	▲ 10.4	▲ 13.9	▲ 14.6	▲ 6.0 (▲ 13.4)
小売	▲ 10.4	▲ 12.3	▲ 9.2	▲ 8.0	▲ 10.3	▲ 5.8	▲ 7.8 (▲ 8.7)
サービス	▲ 8.2	▲ 6.4	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 4.2 (▲ 10.2)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】卸売業以外の全業種で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】製造業、小売業で過剰超感強まる見通し。

【平成12年8月の景気キーワード】

○ 競争激化

建設業からは、「業況は益々悪化してきている。公共工事も例年に比べ発注率が低下し、民間工事も低価格競争が激しく、採算度外視の様相を見せている状態」（焼津・土木工事）、「元請けのダンピング受注競争の激化で我々専門工事業者は職種を問わず採算面で限界である」（福岡・木造建築工事）といった声が寄せられている。また、製造業からは、「低価格を背景とした海外製品に押され気味」（久慈・織物製外衣）、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（燕・金物類）など、特に海外製品との競争激化についての指摘が多く寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「海外（欧米）流通業の進出や近隣への食品ショッピングモールの出店攻勢の影響あり」（日立・百貨店）、「衣料品が動いても単価が低いので、もうけにならない。他の大型店の低価格路線の影響が大きい」（伊那・百貨店）、「駅前的大型ホテルとの競争激化」（金沢・旅館）、「完全なオーバーストア状況」（能代・食堂、レストラン）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

○ 消費低迷

引き続き消費低迷による売上減を訴える声が多く寄せられているほか、今夏発生した食中毒事件等の消費への影響を指摘する声が多く寄せられている。「雪印乳業の問題や、この夏暑い日が続いて食中毒警報が出たりと、食品へのイメージダウンも影響して売上げは前年比ダウン」（焼津・農畜産水産物卸）、「食料関連品（乳製品等）販売不振」（古河・百貨店）、「食料品部が異物混入事件の影響を受け『生もの』を中心に売上苦戦」（京都・百貨店）といった声が寄せられている。

○ 猛暑の影響

今月の猛暑による影響について、各業種からプラス・マイナス多くの声が寄せられている。「猛暑の影響で、売上げは減少している」（福島・パン・菓子製造）、「秋冬物受注の出足が鈍く、引き続き低操業を余儀なくされている」（今治・織物製外衣製造）、「農産物の価格不安定」（松任・各種商品小売）、「暑い日が続く、客数減少」（茅ヶ崎・商店街）、「暑さで秋物が売れない」（八尾・百貨店）、「連日連夜これだけ超酷暑が続いては生鮮品を扱う者にとっては打撃である」（美濃加茂・すし店）といった厳しい声が寄せられている。その一方で、「夏の暑さのおかげで、ビールの消費が若干よかった」（伊那・食料飲料卸）、「7月・8月と暑い夏が続く、季節商品を扱う問屋にとっては良い夏であった」（仙台・総合卸）、「高気温の影響で、食品（ジュース、アイスクリーム、ビール）、家電（エアコン等）が売れている」（加賀・百貨店）、「気温上昇となり特に盛夏衣料品の売れ行きが良い」（豊橋・百貨店）、「異常高温の毎日で、客数の増加が見られる。9月以降に注目したい」（むさし府中・そば・うどん店）、といった指摘も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年 6月	先行き期待	競争激化	天候不順
7月	競争激化	消費低迷	先行き期待
8月	競争激化	消費低迷	猛暑の影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、特に業況・売上D Iは3ヵ月連続の拡大となっている。「民間設備投資が活発化」(一般工事)との声が一部で寄せられる一方、「業況は益々悪化してきている。公共工事も例年に比べ発注率が低下し、民間工事も低価格競争が激しく、採算度外視の様相を見せている状態」(土木工事)、「工事の件数が減少。経費の増加、金利負担で資金繰りが厳しい」(一般工事)といった厳しい状況も多く指摘されている。
製 造	業況・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、売上D Iはマイナス幅が縮小している。「受注良好、年内は堅調に推移する」(電子部品)、「半導体製造関連は売上・採算ともに増加傾向にある。関連の裾野分野も徐々に良くなって来ている」(金属加工機械)などの声が寄せられる一方、「猛暑の影響で、売上げは減少」(パン・菓子)、「受注単価は一向に上昇せず、むしろ切り下げ圧力が強く、売上減、採算悪化にならざるを得ない。設備投資の動きはまだ見られない」(金属加工機械)、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」(金物類)といった厳しい声も指摘されている。
卸 売	業況・売上・採算D Iとも前月の大幅なマイナス幅拡大から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「雪印乳業の問題や、この夏暑い日が続いて食中毒警報が出たりと、食品へのイメージダウンも影響して売上げは前年比ダウン」(農畜産水産物)、「大幅な漁獲減少で、大変厳しい状況」(同)、「陶磁器市場が縮小方向にあり、加えて安価な輸入商品の増加が、価格に影響を及ぼしており打開策に苦慮されている状況下」(家具・建具・什器等)、など厳しい業況を訴える声が多いものの、「夏の暑さのおかげで、ビールの消費が若干よかった」(食料・飲料)、「7月・8月と暑い夏が続き、季節商品を扱う問屋にとっては良い夏であった」(総合卸)との声も寄せられている。
小 売	業況D Iは前月のマイナス幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している一方、売上・採算D Iは3ヵ月連続でマイナス幅が拡大している。依然として客数の減少・客単価の下落といった消費低迷が指摘されているほか、「猛暑の影響で、商店街を歩く人が少なく、売上減となった店が多い」(商店街)、「食料関連品(乳製品等)販売不振」(百貨店)などの指摘が寄せられている。その一方で、「高気温の影響で、食品(ジュース、アイスクリーム、ビール)、家電(エアコン等)が売れている」(百貨店)、「若者を中心に乗用車2000cc未満の売上好調」(自動車)といった声も寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「地震報道による風評影響が大きく、観光客減。さらに秋の予約不振」(旅館)、「企業等の団体客減少。客単価が低い」(食堂・レストラン)といった指摘がある一方、「異常高温の毎日で、客数の増加が見られる。9月以降に注目したい」(そば・うどん店)、「同窓会等、団体の客数が多かった」(旅館)、「業界としては少し良いムード、夏のレジャー等による活気で車の活動が非常に活発になり、持続できるか今後に期待している」(自動車整備)などの声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、中国・四国・九州の各ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、他のブロックで縮小した。

○ ブロック別の向こう3ヵ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	12年						先行き見通し 9～11月
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
全 国	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 34.9	▲ 36.3	▲ 37.9	▲ 37.2	▲ 28.3 (▲ 29.4)
北海道	▲ 27.5	▲ 36.8	▲ 41.4	▲ 44.4	▲ 40.0	▲ 38.5	▲ 35.2 (▲ 16.5)
東 北	▲ 24.2	▲ 35.5	▲ 33.3	▲ 34.8	▲ 34.4	▲ 33.6	▲ 30.9 (▲ 34.6)
北陸信越	▲ 31.7	▲ 29.9	▲ 31.0	▲ 28.0	▲ 30.4	▲ 29.2	▲ 28.0 (▲ 27.3)
関 東	▲ 37.6	▲ 33.4	▲ 33.7	▲ 34.2	▲ 38.2	▲ 36.7	▲ 22.6 (▲ 24.4)
東 海	▲ 43.3	▲ 36.8	▲ 36.3	▲ 32.2	▲ 37.3	▲ 34.0	▲ 28.4 (▲ 33.9)
近 畿	▲ 42.3	▲ 48.9	▲ 39.7	▲ 47.9	▲ 42.7	▲ 37.9	▲ 29.9 (▲ 38.3)
中 国	▲ 39.8	▲ 33.6	▲ 33.9	▲ 34.1	▲ 34.6	▲ 39.5	▲ 37.7 (▲ 38.9)
四 国	▲ 44.4	▲ 42.1	▲ 40.7	▲ 47.4	▲ 48.1	▲ 54.9	▲ 28.3 (▲ 22.3)
九 州	▲ 24.8	▲ 21.8	▲ 28.4	▲ 27.7	▲ 36.1	▲ 37.3	▲ 25.2 (▲ 28.9)

